

令和3年度 事業報告

社会福祉法人長野県社会福祉事業団

目 次

本部事務局事業

1 経営組織のガバナンス強化	・・・ 1
2 事業運営の透明性の向上	・・・ 2
3 経営基盤の安定強化	・・・ 3
4 公共事業の取り組み	・・・ 6
5 新型コロナウイルス感染防止対策について	・・・ 7
7 計画的な施設整備・メンテナンスの実施	・・・ 8
8 提供するサービスの質の向上	
9 各事業所の特記事項	
(1) 長野ブロック	・・・ 1 1
・水内荘	
・みのちグループホームセンター	
・歩楽里	
・八雲日和	
・小春日和	
・長野市地域活動支援センターこぶし	
(2) 松本ブロック	・・・ 1 4
・信濃学園	
・松本あさひ学園	
・松本ひよこ	
・大北圏域障がい者就業・生活支援センター	
・松本児童家庭支援センター	
(3) 上伊那北部ブロック	・・・ 1 7
・ほっと上伊那	
・伊那ゆいま～る	
・ほっとジョイブ	
・辰野町障がい者就労支援センター	
・辰野町地域活動支援センター	
(4) 上伊那南部ブロック	・・・ 2 0
・西駒郷	
・上伊那圏域障がい者総合支援センター	
(5) 障がい者福祉センター・ブロック	・・・ 2 2
(6) 泉平ハイツブロック	・・・ 2 3
*参考資料 抜粋	・・・ 2 4

新型コロナウイルス感染症集団感染対応について

令和3年度長野県社会福祉事業団事業報告

令和3年度は、長野県社会福祉事業団第3次長期構想の最終年にあたり、これまでの5年間の総括と検証を基に各事業所及び策定委員会での検討を重ね、次の5年間に向けた長野県社会福祉事業団第4次中期構想を策定しました。

長期化している新型コロナウイルス感染症対策では、国及び長野県の動静を軸とした管理運営を行いつながら感染防止に努めてきましたが、令和4年2月1日に法人施設で初となる感染者が発症しました。

2月中旬までには、複数の事業所で発症者がみられ、令和3年度の事業所における利用者及び職員の発症者は8事業所の利用者16人、職員27人でした。また、感染者が発生した場合の協力体制、建物ゾーニング等の対応方針など準備をしていましたが、感染状況下の人的、物的支援の方法、施設環境の不具合などで多くの課題も見つかりました。法人及び事業所の検証とBCPの取り組みが必要です。

本部事務局事業

1 経営組織のガバナンスの強化

(1) 法人運営に関する会議

事業計画、予算、決算などの重要事項について下記会議を開催しました。

ア 評議員会の開催（定時評議員会1回（6月）と臨時評議員会を3月及び必要に応じ）

開催日	内 容
6/24 WEB開催	・理事及び監事の選任について、令和2年度第6次補正について ・長野県社会福祉事業団諸規程の一部改正、令和2年度事業報告及び決算報告 ・新型コロナウイルス感染症対策、ワクチン接種等
11/11 WEB開催	・長野県社会福祉事業団諸規程の一部変更について ・令和3年度積立資産の積立及び取り崩しについて ・令和3年度事業の中間報告、理事長及び常務理事の職務執行状況等
3/24 WEB開催	・長野県社会福祉事業団定款の一部変更について ・令和4年度積立資金取り崩しについて ・長野県社会福祉事業団第4次中期構想の承認について ・ブロック長、事務局長、事業所長の選任について等

イ 理事会の開催（評議員会の開催前と必要に応じ）

開催日	内 容
6/8 WEB開催	・長野県社会福祉事業団定款及び諸規程の一部改正について ・令和2年度収支決算に係る計算書類及び事業報告について ・令和3年度収支予算の第1次補正等
6/24 WEB開催	・理事長及び常務理事の選定について ・長野県社会福祉事業団経理規程の一部改正について
11/11 WEB開催	・長野県社会福祉事業団経理規程の一部改正について ・令和3年度事業の中間報告について ・令和3年度収支予算の第3次補正等
3/10 WEB開催	・長野県社会福祉事業団定款及び諸規程の一部改正 ・長野県社会福祉事業団第4次中期構想について ・令和4年度借入金の限度額等について ・令和4年度事業計画及び収支予算等
3/24 WEB開催	・長野県社会福祉事業団諸規程の一部改正等について

ウ 経営委員会の開催（月1回） 全てWEB会議

回数	内 容
14回 (WEB会議)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画、報告について ・予算執行について規程、運営規程等の改正について ・長野市地域活動支援センター、辰野町地域活動支援センターの指定管理者の指定申請について ・福祉・介護処遇改善臨時特例交付金について等

(2) 事業の進捗管理

ア ブロック会議

ブロック事業所の課題解決や職員研修の実施（適宜）

イ 所長会議の開催

回数	内 容
4回 (WEB会議)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画、報告、予算執行について ・各事業進捗状況報告、懸案事項検討 ・新型コロナウイルス感染症対策について ・福祉・介護処遇改善臨時特例交付金等

ウ 事業団委員会

特に課題検討が必要な委員会を選定し活動しました。

<管理部門>

委員会名	実 施 内 容
広 報	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局が主導し効果的な情報発信ができる方策を検討しました。

<支援部門>

効率的な委員会のあり方について検討しました。支援部門の活動自体は行いませんでした。

<プロジェクト>

委員会名	実 施 内 容
第4次中期構想策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次中期構想策定に向け検討を行い、長野県社会福祉事業団第4次中期構想～新たな事業団創造プラン～をまとめました。
人事・給与制度統合・改善検討	<ul style="list-style-type: none"> 法人の活性化と経営に向けた人事給与制度の改善検討を行いました。 同時に勤務評価、キャリアパス等の見直しが必要となりました。

2 事業運営の透明性の向上

(1) 情報公開

経営の透明性を確保するため財務諸表や活動状況、事業計画、役員報酬等、事務局から速やかにホームページ上で公開しました。

(2) 情報提供

事業所の取組や方針など、誰もが見やすく分かりやすい情報提供にため、下記について取り組みました。

- ・職員対象の広報紙（やまびこ）の発行
- ・法人内の効果的な情報共有のための職員サイトの活用

3 経営基盤の安定強化

(1) 人事管理

ア 職員の確保

・安定した職員の確保のため、県内外の大学、短大、専門学校や関係機関が主催する職場説明への参加、他の福祉団体と連携し福祉人材確保に取組みました。採用に興味のある方に対しては、事務局と事業所が連携してWEB説明会を実施し、積極的に情報の発信を行いました。しかしながら、法人全体で常態的な職員の欠員が生じ、職員の補充が難しいのが実情です。年間を通して随

時の募集を行い、職員確保に努めましたが、全ての欠員を満たすことはできませんでした。
なお、採用試験は、新型コロナウイルス感染防止対策のため WEB 方式で面接を実施しました。

新規採用職員内訳

階層	職務	人數(人)
総合職	支援員、心理支援員	5
一般職	支援員、スポーツ指導員	11
介護職	介護員、調理員	7
合計		23

イ 職員の育成

- ・事業団研修要綱に基づき「事業団研修」を実施しました。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策のため、大半がWEBによる研修会となりましたが、概ね予定した研修は実施することができました。先進施設の長期派遣研修のかわりに予定した、はるにれの里とのオンライン研修は、法人内の新型コロナウイルス感染者の発症により、残念ながら中止としました。

ウ 「働き方改革」の推進

- ・職員の心身の健康管理を図るため、定期健康診断やストレスチェックを実施しました。ストレスチェックは、法人全体で569人が実施し、希望する高ストレス者に対しては医師のアドバイスを勧めました。
- ・心身の健康的な理由により、通常の就業ができない職員に対しては、試し出勤等で対応し、復職に向けた漸進的な支援を行いました。
- ・法人合併に伴う制度の統合改善については、人事・給与制度統合改善委員会で検討を行い、給与制度等の見直しでは、職員から率直な意見交換がなされ、具体的な課題の抽出がなされました。

(2) 財務規律の確保

ア 監査の実施

経営の適正化などを図るため、監事及び会計監査人による経理業務の監査を行いました。

イ 計画的な予算執行

本部事務局において各施設の予算執行状況を毎月確認し、計画的な予算執行に努めました。

ウ コスト削減

物品の一括購入などによる、コスト削減に努めました。WEBによる会議、研修の実施により、旅費が大幅減となりました。アフターコロナの管理、運営面で継続可能なものは積極的に実施しました。

エ 事業所の運営改善アドバイス

収支において運営改善が必要な事業所に対し、状況の把握と改善に向けたアドバイスを行いました。

事業所	
水内荘、八雲日和	新型コロナウイルス感染対策の影響による利用者の減少に伴う収支について
ほっと上伊那・伊那ゆいま～る	事業所間の効果的、効率的な連携について
西駒郷	西駒郷再整備に向けた安定的な経営について

(3) コンプライアンス体制整備

ア 監査の実施による内部統制

本部事務局、監事、会計監査人、内部監査室、外部評価者による監査、指導の受審による内部統制を図りました。

実施機関	監査内容
本部事務局	各事業所の事業及び予算執行状況の確認、指導及び助言を実施しました。
監事	事業報告、計算関係書類及び財産目録に関する監査を受審しました。
会計監査人	適正かつ公正な収入・支出の管理、財務情報の信頼性向上、業務の効率化、経営の適正化などの実現を図るため、経理業務の監査を受審しました。
内部監査室	監査人の不在により監査室における執務はありませんでした。

イ 顧問弁護士の配置

トラブルの未然防止や起きてしまったトラブルに迅速に対応するため、顧問弁護士に相談できる体制をとりました。

ウ 個人情報保護

「個人情報保護規則」及び「特定個人情報等取扱要綱」「情報管理指針」に基づき、個人情報の適正な取り扱いに努めました。

エ コンプライアンスの推進

コンプライアンス推進のために、職員意識の向上のため積極的な資料の配信等に努めました。

法令や事業団の諸規程、事業所内ルールについて、職員一人ひとりがその意義をしっかりと理解し当事者意識を共有できるよう、各事業所の会議、研修会での周知を求めました。

(4) 利用者が安全で安心して生活できる環境整備

ア 虐待防止、権利擁護の推進

- ・虐待防止、権利擁護に関する職員の意識強化を図る取組を積極的に推進しました。
- ・虐待防止、権利擁護に関する研修等を各事業所で実施しました。

イ リスクマネジメントの強化

- ・各事業所で防災のための施設の点検を行い、より実状に沿った行動のためのマニュアル等整備を行いました。また、市町村及び近隣地域との避難防災の協力体制の締結と確認を行いました。

ウ 防犯体制の確保

関係機関や警察との連携、不審者対策、防犯設備の整備、防犯訓練を通じ防犯意識の向上を図りました。

エ 苦情解決の適正運営

今年度各事業所等に寄せられた苦情については以下の通りです。苦情に対しては、関係者間で情報をオープンにして「事業団における福祉サービスに関する苦情解決要綱」に基づき、速やかに対応しました。

○苦情等受付状況

対象	件数	内 容 (申出人)	職員間での共有方法
入所 GH	5	<ul style="list-style-type: none"> ・支援内容について（2件） (自分の子どもが他利用者に抓られ傷も残っている。職員は何をしているのか、生活の場（寮）を変えてほしい。) 等（家族） ・利用者の行動について (グループホーム横に駐車していた農機具に砂利を投げられ、暴言を言われた)（地域住民） 	職員会議 世話人会議 ミーティング 係会 等
通所	9	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の利用者への対応について（家族） ・支援に対しての不信感（家族） ・苦情対応の情報開示方法について（解りやすくして欲しい）（家族） ・相談者への職員対応について（利用者） ・職員の言動、行動について（2件） (職員間での冗談が気になり精神的に不調となった)（利用者） ・自主製品の異物混入について（一般の購入者） ・自主生産品の異物混入について（利用客） ・受託作業製品の不良について（取引企業） 	広報紙の掲載方法の見直し
高齢者	4	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に対するサービス、物品管理について（4） (職員の言動)（利用者） （利用者の衣類・物品の紛失）（家族） （サービスに対する不満）（家族、利用者） （利用者情報の共有に対する不満）（家族） 	
事務局	3	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所及び職員に関すること（利用者、職員） 	事業所へ連絡

（5）事業所経営のサポート

ア 西駒郷の整備検討について

西駒郷の整備検討について、事務局、西駒郷と県障がい者支援課とで協議し、法人としての意見を提起し協議を重ねました。なお、再整備については、県から令和4年度、5年度に「西駒郷機能強化事業」として実施することが公に示されました。

イ 伊那ゆいま～る、ほっと上伊那の移転開設

令和3年5月に伊那ゆいま～る、ほっと上伊那を新築移転しました。

（伊那市中央4605番地22）

新型コロナウイルス感染症対策に留意し、関係機関及び近隣住民を招いた内覧会を行いました。

ウ 指定管理者の継続申請

長野市地域活動支援センター、辰野町地域活動支援センターの指定管理申請を長野市及び辰に行い、令和4年度から令和8年度までの5年間の指定管理者の指定を受けました。

エ 長野県障がい者芸術文化支援センター（仮称）の事業の受託

令和4年度に長野県が設置する「長野県障がい者芸術文化支援センター」（仮称）事業の受託に向け、法人内で検討を重ね、事業の受託申請をすることを決定しました。これまで培ってきた、法人の文化芸術活動の機能やノウハウを最大限に生かした構想を提案し、プロポーザルの結果、委託業者に指定されました。

4 公益事業の取組み

(1) 修学資金等貸付事業

長野県からの委託事業である各種貸付事業の円滑な運営に努めました。 (単位：人・法人)

	令和2年度		令和3年度	
	貸付者数 (年度末)	貸付者数 (年度末)	貸付者数 (年度末)	中途辞退者 (年度末)
介護福祉士修学資金貸付事業	149	149	142	0
社会福祉士修学資金貸付事業	8	8	8	1
実務者研修受講資金貸付事業	37	37	48	0
再就職準備金貸付事業	52	52	30	3
福祉系高校修学資金（新）	—	—	0	0
介護分野就職支援金（新）	—	—	32	3
児童養護施設退所者等に対する自立支援資金貸付事業	6	6	5	0
ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業	26	26	39	1
保育士修学資金貸付事業	229	229	293	7
保育補助者雇上費貸付事業	3法人	3法人	4法人	0法人
未就学児を持つ保育士に対する保育料の一部貸付事業	11	11	7	0
保育士就職準備金	9	0	9	0
未就学児を持つこどもの預かり支援事業利用料金の一部貸付事業	1	0	0	0

(2) 地域における公益的取組

社会福祉法人の責務として地域貢献活動事業を確実に推進できるよう下記の事業を実施しました。

○各事業所の地域貢献活動計画

事業所名	主な活動内容等
法人	・長野県社会福祉法人経営者協議会が主催する本事業の共催事業所として、ひきこもりの者や生活困窮者など生活に困っている方々に、緊急支援の提供
水内荘	・施設設備の開放（体育館、陶芸窯）
みのちGHC	・新型コロナ感染症対策を継続しつつ体験2名受入
歩楽里	・新型コロナ感染症対策のため中止
八雲日和	・長野市北部地域社会福祉法人連絡会へ参画 ・長野市災害ボランティア委員会の活動に参画。
小春日和	・地域の独居老人宅の安否確認、地域住民の憩いや交流のためのフリースペース提供
こぶし	・豊野中学校生徒会のボランティア活動に協力 (交流は新型コロナ対策のため中止)
信濃学園	・地域防災の相互協力、独居者の受け入れ 新型コロナ対策として中止
松本あさひ学園	・新型コロナウイルス感染症拡大により地域交流は中止（奉仕活動（町会河川清掃）地域イベント参加（太鼓演奏））・教育関係等
松本ひよこ	・施設設備（駐車場）の開放、リサイクル活動
大北圏域障がい者就業・生活支援センター	・自立支援協議会事務局の運営
松本児童家庭支援センター あいく	・長野県里親会連合会の事務局業務を受託し、役員会や県大会の事業補助 ・市町村が実施する、乳幼児健診のアフターフォロー事業への協力
ほっと上伊那	・地域の清掃活動 ・地域（箕輪町）の他法人と地域貢献活動の協力、イベント実施 ・長野県障がい者施策推進委員
伊那ゆいま～る	・地域清掃活動、伊那市との災害時応援協定による福祉避難所体制
ほっとジョイブ	・生活が困窮する家庭の子供等をサポート、団体への食材提供は中止 ・自所や地域のイベント（新型コロナウイルス感染症対策を講じながらでき

	ることを実施)
辰野就労センター	・山間地など外出の難しい高齢者に対し移動販売車による地域のイベントへの出店、
辰野地域センター	・リサイクル活動（アルミ缶回収、エコキャップ仕分け、牛乳パック回収等）
西駒郷	・駒ヶ根市「地域見守りネットワーク協力事業所」への登録
上伊那圏域障がい者総合支援センター	・養護学校就労支援セミナー講師・文化祭での出張相談、高校3年生を対象とした出張相談 ・研修会等への講師派遣 ・上伊那広域連合障害支援区分認定審査会への協力
障がい者福祉センター	・地域スポーツ支援リーダーの養成と派遣
泉平ハイツ	・新型コロナ感染症対策のため中止

5 新型コロナウイルス感染防止対策について

長期化する新型コロナウイルス感染防止対策は、まん延防止等重点措置等 国及び長野県の指針に沿い、事業所内の感染防止、職員行動の規範を各事業所に周知徹底しました。

(1) オンラインの活用

- ・会議・職員研修・面会・職場説明会・職員採用試験面接を実施しました。
- ・オンラインサービスを2ライセンス取得し法人内で効果的に活用しました。
- ・支援、介護サービスを提供しない事務業務等、在宅にてテレワークを実施しました。

(2) 助成金

事業所における感染対策やサービス再開に向け、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業交付金等を活用しました。

助成金内容	金額（円）	該当事業所数
【長野県】サービス継続支援事業補助金	2,109,000	5
【長野県】感染防止対策支援事業助成金	393,000	10
【長野県】環境改善事業補助金	1,923,000	1
【長野県、長野市、松本市】自主検査費用補助金	5,453,000	10
【長野県、長野市他】ワクチン接種委託費用／個別接種協力金	1,021,019	1
【伊那市】感染対策福祉事業者支援事業補助金	1,000,000	1
【箕輪町】感染症対策福祉施設応援金	200,000	1
【南箕輪村】感染症対策応援金事業交付金／感染症対策福祉施設応援金／感染症対策飲食店応援事業交付金	400,000	1
合 計	12,499,019	

(3) 事業所の感染等状況

感染者（陽性者） (人)

事業所名	利用者	職 員
歩楽里	1	0
信濃学園	6	1 2
松本あさひ学園	—	1
ほっと上伊那	8	9
西駒郷	* 8	2
サンアップル	—	1
泉平ハイツ		1
事務局	—	1
合 計	16	2 7

*ほっと上伊那及び西駒郷 7人は重複

6 計画的な施設整備・メンテナンスの実施

安心・安全で快適な生活環境を維持するためメンテナンスや点検の徹底を図るとともに、老朽、故障個所の早期発見、早期対応による維持管理に努めました。

○施設整備及び住・作業環境等の改善状況

(円)

事業所	内 容	金額	備考
水内荘	各居室のエアコン工事	5,368,000	新設
	棟周辺のアスファルト舗装	6,952,000	安全対策
	電気ケーブル工事	5,022,600	容量増設
みのち グループホームセンター	服部ハイツ屋根改修工事	1,430,000	老朽化
信濃学園	食堂棟改修工事	県直	
	フェンス改修工事（県指定修繕）	14,355,000	老朽化
松本あさひ学園	床暖房不凍液交換	見直	老朽化
	Wi-Fi 環境整備（県環境改善事業）	913,000	
	倉庫の設置（松本中央ライオンズクラブ寄贈）	105,000	
	倉庫の設置（前年度寄附金使用）	319,990	環境改善
	リフト設置	2,230,250	
西駒郷	備品購入	7,689,000	
	さくら2・4・5寮玄関ドア更新 (県指定修繕)	5,297,160	老朽化
	地下タンク内面コーティング工事（県指定修繕）	1,663,200	流出防止
障がい者福祉センター	排煙窓修理	118,800	
	シャワー室電磁弁修理	277,750	老朽化
泉平ハイツ	介護ベッドの更新（10台）	3,212,000	老朽化

8 提供するサービスの質の向上

(1) 虐待防止、権利擁護の推進

虐待防止、権利擁護に関する職員の意識強化を図るため、法人、ブロック、事業所ごとの研修会のほか、職員が虐待に繋がる言動や行為を自覚し、日ごろの支援を振り返るきっかけづくりとして「セルフチェック」を実施しましたが、いくつかの虐待及び疑わしい事案が発生してしまいました。ただちに原因の追究と再発防止に向けた改善策に取り組みました。また、県、市町村等の関係機関に通報するとともに改善に取り組みました。

○虐待及び疑わしい事案

該当事業所	通告者	内容	結果	主な対策
松本ひよこ	職員	パニックを落ち着かせる対応が不適切である。	調査中	職員による研修、マニュアル等の支援方法の再確認を行いました。
ほっと 上伊那	職員	世話人の利用者に対する言葉がけが不適切である。 (言葉がきつい)	虐待とは認定されませんでしたが、支援についての振り返りをして欲しいとの依頼がありました。	世話人会において振り返りや、権利擁護に関する解り易い学習会を行いました。、利用者の特性についての説明も行いました。
西駒郷	利用者 職員	利用者から「職員に腕をつかまれたときにあざができた」と報告があつ	心理的虐待と認定される。改善計画書を提出し、それに基づいて再発防止策を行	・虐待した職員の配置転換、虐待防止研修への参加、上司との定期的な面談を行いました。

		た。 日常的に利用者に対する不適切な対応（口調や態度）	う。中間報告と最終報告を提出し、終結と判断されました。	・外部講師による職員対象の研修、利用者への権利擁護研修の実施 ・サービス管理責任者による利用者との面談、利用者からの「ご意見箱」を設置しました。
	匿名	ある職員が特定の利用者に対して暴言や無視がある。上司に相談しても取り合ってくれないといった内容の文書が行政に届いたことによる。	虐待にはあたらないが不適切な支援があったと判断がある。指摘事項があり検討の上対応するよう指導がありました。	・利用者個々の対応方法について共通認識を図るために、ロールプレイ等を用いて検討しました。 ・職員への上司の面談を増やし、職場内の代表者が意見交換を行う場を設けました

(2) 利用者が安全で安心して生活できる環境の整備

ヒヤリ・ハット報告や利用者等の声などから、事故の予防、発生時の対応や再発防止に向け取組みましたが、以下の事故が起きてしまいました。再度、要因等を検証、再発防止策を講じました。

○事業所の事故事案

事業所名	性別	内 容	主な対策
みのち GHC	男性	利用者本人が車椅子ブレーキを解除したことによる衝突事故	車椅子はブレーキを解除しても動き出すことのない平面の場所への停車を徹底するとともに、玄関周りにフェンスを設置しました。
	女性	自室ドアレールに躊躇転倒骨折	世話人の配置を増やとともに、ホーム内の段差解消工事を令和4年度に実施します。
歩楽里	男児	おやつ時、菓子を喉に詰まらせた。	利用者の咀嚼・嚥下の状況を再確認し、食べられる形態や介助方法等について確認しました。
	男性	通所事業所の送迎で歩楽里へ到着したが、年末休業日で職員不在であり、自力で自宅へ戻った。	通所事業所へ歩楽里の休業日について連絡を行なうとともに、送迎で到着した際には、引き渡しの確認を事業所間で行なうようにしました。
	女性	帰宅後、太ももにあざがあることを家族が発見したが原因は、不明	できるだけ複数での支援体制をとることで職員の目が行き届くようにしました。
	女児	一時、所在不明	所在確認の徹底と本人の特性を踏まえた対応について職員間で再確認しました。
八雲日和	男性	ウォーキング中、転倒し手、足、顔に擦過傷と打撲を負う	歩行速度が違う利用者をグループ分けし、職員が横に寄り添うようにしました。
信濃学園	男児	他利用者とトラブルになり、興奮して自室の壁を蹴って右足の甲を骨折	本人の行動に予測を立て、個別に対応をするようにしました。
	男児	玄関で靴を履き替えて、立ち上がったときに設置してあったAED装置の角に頭をぶつけて頭部を裂傷	AED装置の下部をクッション材で保護しました。
松本ひよこ	男性	原因は不明であるが、胸部に外部から力が加わったことによる皮下出血	検証、職員からの聞き取り、支援や見守りの等について世話人会で検討し周知しました。

	男性	立ち上がりの際のふらつきによる頭部強打による裂傷	移動時、周辺の障害物の排除及び保護帽を作成し、再発防止を図りました。
ほっと上伊那	男性	圧迫骨折 (骨粗しょう症)	介護保険の申請、生活の場の検討をしています。
	女性	鎖骨、手首の骨折、転倒による肋骨骨折 (骨粗しょう症)	介護保険の申請、生活の場の検討しています。
	女性	転倒等による鎖骨骨折 (骨粗しょう症)	介護保険申請 入浴のサービス利用を開始しました。
	女性	転倒による大腿骨骨折 (骨粗しょう症)	介護保険申請。リハビリ後の行動の見守りをしています。
	男性	ジャンプ行為中のアキレス腱断裂	本人が落ち着ける支援の提供を日中活動とも連携して行います。
ほっとジョイブ	女性	送迎車から乗降時にドアに手を挟み出血	他利用者が乗降後ドアを突然閉めてしまった。安全確認を行うよう徹底しました。
	女性	活動途中に所在不明	勘違いからホームへ帰ろうとし周囲に伝えず出てしまう。常に注視することを徹底しました。
辰野町 地域活動支援 センター	女性	ウエス作業中、使用していたハサミで指を切る	ハサミを使用する際には十分気を付けるよう声掛けを行い、職員が必ず付いて作業を行うように徹底しました。
西駒郷	男性	急に歩行ができなくなり、いくつかの診療科を経て骨折（左大腿骨頸部骨折）が判明	言葉はなく訴えることができず骨折の原因が不明のため、居室内に設置してある備品を整えるなど環境を見直しました。
	男性	他利用者が近づいてきたため、急いで自室に入ろうとした際ドアに手を挟み右手中指が骨折	対人関係改善のための部屋替えの検討と手を挟むことを防止するようドアバー・ハンドルの変更を行いました
	男性	居室内で転倒し骨折（右上腕骨近位端骨折）	居室内に呼び出しブザー、ポータブルトイレの設置しました。また、移動に応じ歩行器、車椅子の使用を始めました。
	男性	居室入口で転倒し右手小指が骨折（てんかん発作がある人）	居室に呼び出しのインターホンを設置し、必要時は職員が介助を行うようにしました。
	女性	歩行の異変があり医療機関を受診すると右足小指の骨折が判明	多動傾向にあるため周囲に危険な状況がないか把握し回避するようにしました。

9 各事業所の特記事項

(1) 長野ブロック

事業所名	特記事項				
	事業名	定員	年度当初	年度末	定員との差異
施設入所支援	40	40	40		
生活介護	60	58	59		1
短期入所	6 (併設型)				
事業名	実績		備考		
相談支援（一般）	実績なし				
相談支援（特定）	更新1件、モニタリング6件				
収支状況		収入	支出	収支差額	
	令和2年度	239,445,063	234,779,047	4,666,016	
	令和3年度	254,752,998	255,188,966	3,349,659	
1 水内荘	サービス業務	<ul style="list-style-type: none"> コロナの感染予防をはじめ利用者の日常的にバイトルチェックや健康診断、健康相談、各種検診等健康管理に一段と配慮しました。 前年に引き続き給食の委託業者等と連携して利用者が楽しめる企画を実施しました。 相談支援事業は歩楽里へ一本化し、今後については検討課題としました。 ホームページが更新できることでコロナ禍の水内荘を知つてもらう機会となりました 令和元年の台風19号災害を教訓に豊野区から体育館等の使用要請があり、協定を締結しました。また、「豊野復興花火大会」に協賛しました。（令和3年8月9日開催） 			
	管理業務	<ul style="list-style-type: none"> 強度行動障害支援者養成研修会に2名が参加し、資格取得者が11名となりました。また、新たに療養食加算を取得し、支援の向上と介護報酬の増収を図りました。 全居室へのエアコン設置並びに施設周囲のアスファルト舗装を全面改修しました。 非常災害時に備え、非常食1日分を調達し備蓄を3日分に増やしました。 コロナの感染者が出た場合を想定して「対応マニュアル」に沿つてガウンテクニックやゾーニング等の実施訓練を6回行いました。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 強度行動障害者受け入れのための施設整備の必要性を検討 歩楽里との相談支援事業のあり方（廃止または中止いずれかの判断） 			

事業所名	特記事項				
	事業名	定員	年度当初	年度末	定員との差異
共同生活援助	52	51	51		△1
収支状況		収入	支出	収支差額	
	令和2年度	152,038,636	156,730,065	△4,691,429	
	令和3年度	111,890,375	115,368,067	△3,477,692	
2 みのち グループ ホーム センター	サービス業務	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険サービス事業所と緊密に連携し2名の高齢利用者が特養へ移行しました。 利用者の状態に合わせ、障害福祉サービスとデイサービスの利用日数、曜日を調整しました。デイサービスを利用しない日も介護保険でマッサージを導入し、コロナ禍であっても利用者の生活が充実するよう工夫しました。 障がい特性の理解を進めるためにワークショップを取り入れた世話人研修を実施し、ホームによっては学んだことを活かした作品制作に取り組みました。 感染対策を徹底しながら在宅から2名の体験を受入れ、入居につなげました。 			
	管理業務	<ul style="list-style-type: none"> 世話人会議は計画した4回のうち1回は新型コロナの警戒レベルが高く開催できませんでしたスキルアップを図る研修を盛り込む等内容を工夫しました。 老朽化が進んでいるホームを2棟閉鎖した他、計画通り「服部ハイツ」の屋根改修工事を実施しました。また、近隣住民からの苦情回避や利用者の安全確保のためのフェンスを設置しました。 緊急時の各ホームとの伝達訓練を実施しました。また、あさのホームについては大雨で河川の氾濫が危惧された時に、避難指示が出る前に水内荘に早めの避難をしました。 			

	課題	<ul style="list-style-type: none"> 各ホームの世話人への効率の良い情報伝達方法の導入 (確実、迅速、わかりやすく) スマートフォン等の活用 第3次長期構想に基づくホームの開設、廃止等の再確認 利用者の高齢化等による災害等緊急時の対応を見据えたホームの再編検討
--	----	---

事業所名	特記事項			() は年度の登録者数	
	事業名	相談件数	相談人数	件数対前年比	人数対前年比
3 歩楽里	相談支援（特定）	686 件	228	125.8%	117.5%
	相談支援（障害児）	75 件	28	96.1%	100%
	相談支援（一般）	0			
事業名	定員／日	年度当初登録児	年度末登録児	登録児増減	
放課後等デイサービス	10	10 (33)	10 (35)	(2)	
収支状況			収入	支出	収支差額
	令和2年度	52,982,250	50,012,644	2,969,606	
	令和3年度	54,182,932	54,728,385	△545,453	
サービス業務	<ul style="list-style-type: none"> 指定相談支援事業は、水内荘の相談ケースを順次歩楽里へ移行し、長野ブロック内の相談支援体制の一本化を図りました。また、新規ケースの受け入れや加算の取得に努めました。 分散登校、休校など感染症の影響を受け、利用人数の減少が見られました。 (平均利用者 7.5人／日…△1人前年比) もんぜんぶら座に「長野市北部障害者相談支援センター」が開設され、1名が出向しました。 				
管理業務	<ul style="list-style-type: none"> 事例検討の実施や権利擁護、強度行動障がい養成研修の復命報告等、事業所内での学習会の機会としました。 「赤い羽根共同募金」の補助金を利用し、放課後等デイサービス利用者送迎車として軽自動車1台を購入しました。 利用者の健康管理について、家庭、学校等と連携し、健康チェック表を活用するなど適切に対応が図れるよう努めました。また、感染予防に努めながら、活動の工夫をし、安心して利用して頂けるよう留意しました。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> 利用者は一定数確保できているが、恒常的に利用率が低い。 安定した相談支援事業の体制づくり（水内荘からの一本化） 相談支援の質の向上（個人の技量、組織体制） 				

事業所名	特記事項 () は年度途中での定員変更後の人数				
	事業名	定員	年度当初	年度末	定員との差異
4 八雲日和	生活介護	20	16	16	△4
	就労継続支援B型	20	23	22	2
収支状況	年度	収入	支出	収支差額	
	令和2年度	177,895,409	176,918,954	976,455	
	令和3年度	78,140,976	70,824,077	7,316,899	
サービス業務	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染対策として約7か月の分散活動となりました。また、高齢化等による利用者の就労意欲の減退等の要因で事業収入面で減収（△1,100千円）となりました。 うどん、おやきの販売を注文販売に切り替え、売り上げ増に努めました。おやきは被災前の実績を上回りました。目標とした平均工賃額には届きませんでしたが前年比は+4千円ほどでした。平均工賃 25,822円(前年比+4,116円) 「長野市災害ボランティア委員会」の活動に新たに参画したり、「長野市復興だよりワン・ハート」の媒体等を通じてうどん・おやきの販売促進や「うどん・おやき工房さくら」の宣伝に努めました。 前年に引き続き「長野市北部地域社会福祉法人連絡会」に参画し、施設の理解と地 				

	域の復興や活性化に向けた活動を行いました。
管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策に細心の注意を払い、資格取得を目指す学生1名、体験学習の学生1名と生活介護1名、就労継続支援B型2名の養護学校実習生を受け入れました。 ・HACCPによる衛生管理を実施し、食品製造に伴う器具類の安全管理に配慮しました。 ・洪水時の「避難確保計画」を事業所内で検証し、長野市へ再提出しました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生活介護利用者の高齢化、重度化の検証（数値化）をもとにした移行等の検討（現在の作業のやりにくさの要因分析） ・小春日和と合併を踏まえた利用者の再編と施設整備

5 小春日和	特記事項				
	事業名	定員	年度当初	年度末	定員との差異
	就労移行支援	6	3	1	△5
	就労継続支援B型	14	21	22	8
	就労定着	—	0	0	—
	収支状況	収入	支出	収支差額	
		令和2年度	82,020,132	90,240,942	△8,220,810
		令和3年度	45,756,339	52,186,196	△6,429,857
	サービス業務	<ul style="list-style-type: none"> ・就労移行支援事業の利用者1名が自動車販売会社へ一般就労しました。 ・平均工賃は、15,474円（前年度比+3,444円）でした。 ・就労定着支援では、本年度3件の新規契約があり、雇用が継続しています。 ・就労継続支援B型では、利用者1名が自動車販売会社へ一般就労しました。 また、新規作業受入は2件でした。（農福連携作業1件、選挙事務所のDM作業） ・平均工賃 15,786円（前年度比+5,288円）工賃増の理由は施設外作業での収入が増えたことや新規作業種の獲得によります。 			
	管理業務	<ul style="list-style-type: none"> 台風19号での被災を教訓に、より実態に即した「避難確保計画」を元にした避難訓練を実施しました。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 八雲日和と合併を踏まえた利用者の再編と施設整備（利用者が多いとスペースが狭小） 			

6 長野市 地域活動 支援 センター こぶし	特記事項 () は登録者数				
	事業名	定員	年度当初	年度末	定員との差異
	地域活動支援センター	15	15 (14)	15 (13)	0 (△2)
	収支状況	年度	収入	支出	収支差額
		令和2年度	10,812,787	10,758,354	54,433
		令和3年度	9,227,218	9,281,651	△54,433
	サービス業務	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、身体を動かす時間を確保し健康管理に努めました。 <作業以外の活動の充実> ・警戒レベルが落ちていた6月に地域のボランティアの外部講師を招いての「フラワーアレンジメント講座」を開き、利用者に大変喜ばれました。 			

	管理業務	<ul style="list-style-type: none"> 事業所のWEB環境を整えたことで、虐待防止・権利擁護などの各種研修への参加、また、地域活動支援センター連絡会等、他団体との会議など効率よく意見交換や情報収集を行うことができました。 「かがやきひろば」指定管理者と連携して防災・防犯に努めました。 長野市に第3期指定管理者の申請を行い、令和4年度から令和9年度までの5年間の指定管理者の指定を受けました。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 今後のセンターのあり方と運営についての協議 (長野市、事務局等) 利用率が低い一方で、人数が増えると環境面で難(狭い) 管理運営上、正規職員の配置が理想であるが、人件費を勘案すると兼務にせざるを得ない。

(2) 松本ブロック

事業所名	特記事項				
	事業名	定員	年度当初	年度末	定員との差異
7 信濃学園	施設入所支援（児童）	30	28	27	△3
	施設入所支援（成人）		1	0	
	生活介護（成人）		0	0	
	事業名		利用人数	実績	
	短期入所	空床型	5	12日	
	日中一時支援		7	41時間	
収支状況	年度	収入	支出	收支差額	
	令和2年度	253,215,807	270,049,091	△ 16,833,284	
	令和3年度	279,604,890	251,727,566	27,877,324	
サービス業務	<ul style="list-style-type: none"> 地域生活移行の促進：個別支援計画に沿って、関係機関と連携して、地域生活移行に向けた取り組を進めました。18歳以上利用者1名の地域生活移行が実現しました。5名の高校卒業生のうち4名の地域生活移行が実現しました。関係機関との連携を強化するためにソーシャルワーカーを配置しました。居住環境の整備及び安全管理：食堂棟改修工事（県実施）の他、南寮の居室の個室化（パーテーション設置）と静養室の改修工事をしました。 				
管理業務	<ul style="list-style-type: none"> テレワークの推進《新》：業務の効率化や労働時間の短縮、移動時間の縮減、ソーシャルディスタンスを念頭におき、会議や研修においてはテレワークの活用を推進しました。運用にあたっての基本方針等を作成し周知をしました。 新型コロナウィルス感染防止策《重》：国、県から発出される通知等を考慮して策定した学園の基本方針、発生時の対応マニュアル等に基づいて、対処をしました。また、地域の感染状況等に応じ、マニュアルや手順書の見直しを隨時行いました。発生時に備え衛生講習の実施、非常食、衛生物品の備蓄に努めました。令和4年1月31日、初の陽性者（2月1日に確定）がでました。利用者6名、職員12名が感染しましたが、保健所の指導のもとで感染拡大防止対策を実施し、2月17日には収束宣言をだすことができました。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> 感染症拡大対策に効果的な施設整備 各寮の出入りについて一方通行の人的導線を考慮した入口等の設置 (今回の緊急対応時は、窓からの出入りで対応せざるをえなかった。) 安定した地域生活移行先の確保 				

事業所名		特記事項				
8 松本 あさひ 学園	事業名		定員	年度当初	年度末	定員との差異
	児童心理治療（入所）		30	14	13	△17
	児童心理治療（通所）		5	4	4	△1
	収支状況		年度	収入	支出	収支差額
			令和2年度	203, 553, 143	240, 605, 909	△37, 052, 766
			令和3年度	195, 298, 881	194, 282, 870	1, 016, 011
	サービス業務	<ul style="list-style-type: none"> ・アフターフォロー：家庭支援専門相談員を中心に行いました。（50人467件） ・権利擁護：児童への定期的な聴き取り（10回）、外部講師による研修（1回）を行い意識向上に努めました。 ・コロナ禍で制限のかかった生活に潤いを持たせるため、各種行事や食事提供に工夫を凝らした場面の提供に努めました。 ・地域との連携強化：学園の持つ社会資源を地域還元するため、講師等の派遣を行いました。（WEB/2回） ・「ながの子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー」に率先して協力しました。 				
	管理業務	<p>経営管理：例年学園独自に行ってい福祉サービス評価委員会を計画しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により書面での報告になりました。</p> <p>危機管理：新型コロナウイルス感染症拡大によりにより、感染防止に努めました。 職員1人の陽性者が出来ましたが、それ以上の感染拡大には至りませんでした。（2月17日発症）</p> <p>苦情解決の適正運営：児童からの苦情等に対しては、苦情解決実施要領に基づき対応しました。本年度は12件の苦情（要望）が寄せられました。いずれも第三者委員への報告等はありませんでした。</p>				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の確保、定員が満たない分析（児相の措置、学園の受け入れ等） そのうえで県に相談、（児童の確保は県に担ってもらう）などの相談 ・学園、児家セン、児相との連携、情報共有を密に行い児童の入園を目指す。 ・児相には定期、随時を含め学園の空き部屋状況等の報告は行っているがなかなか措置児童の利用には至らない。 				

事業所名		特記事項				
9 松本 ひよこ	事業名		定員	年度当初	年度末	定員との差異
	生活介護		21	21	21	0
	就労継続支援B型		18	18	17	△1
	共同生活援助		23	23	23	0
	事業名		実績		備考	
	相談支援（特定）		計画20件、モニタリング40件			
	相談支援（一般、障がい児）		実績なし			
	収支状況		年度	収入	支出	収支差額
			平成2年度	163, 021, 785	158, 541, 241	4, 480, 544
			令和3年度	178, 893, 175	156, 072, 700	22, 820, 475
	サービス業務	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々のニーズや生活スタイルに応じた小上がりの畳スペース設置やパーティションなどを利用した施設環境を整備しました。（生活介護） ・パンの販売は、新規販売先を5件獲得しましたが、コロナ禍の影響で全体収益は減少し平均工賃額11, 067円、前年比0.3%の減となりました。（就労B） ・地域生活移行を目指す取り組みでは2名の体験を受け入れ1名が入居しました。（共同） ・一人ひとりに適した日課を提供するため居宅介護サービスの提供を開始しました。（重度） ・高齢利用者に対応し、ケアマネと連携し介護保険サービスを開始しました。 				

	管理業務	<ul style="list-style-type: none"> 外部の講師研修、WEBによる外部研修等 事業所の研修体制を整えました。 新規採用した非常勤職員に対して事業所独自のOJTを実施し対応しました 虐待防止研修やセルフチェック等を行い防止に努めましたが、虐待認定事案が発生しました。 地域の関係機関と協議した結果、波田しなのハイツ利用者5名の支援費支給額が増額されました。 第三者評価（生活介護）の受審をしました。 新型コロナウイルス感染防止策国、県、市から発出される通知等を考慮し、対応マニュアル等に基づいて、適切に対処しました。 転倒による負傷(2件)身体の急変による救急搬送(1件)が発生しました。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 職員は一定数いるが、変則勤務に対応できる職員確保が急務（波田しなのハイツ） パン製造に従事できる利用者と職員の配置が難しく、今後の事業の継続が不透明。

事業所名	特記事項				
	事業名	相談件数	相談人数	件数対前年比	人数対前年比
10 大北圏域 障がい者 就業・ 生活支援 センター	障害者就業・生活支援センター	1432件	253人	98.3%	114.7%
	収支状況	年度	収入	支出	収支差額
		令和2年度	20,262,028	19,903,886	358,142
		令和3年度	20,200,143	20,192,565	7,578
サービス業務	障害者就業・生活支援センター事業（国：雇用安定事業 県：生活支援事業）				
	・障がい者の相談支援を実施しました。				
	就職相談697件 職場定着相談210件 生活相談525件 計1432件				
管理業務	職場実習22件 就職32件 職場定着率1年後83.3%				
	求職者交流活動1回 在職者交流活動1回 福祉サービス事業所新規利用21件				
	・企業の相談支援を実施しました。 相談236件 研修講師派遣2件				
課題	・GH、公共住宅入居に向けた支援を実施しました。				
	・自立支援協議会事務局を運営しました。				
	・外部研修や関係機関、他圏域センターとの連絡会議等に参加しました。				
	・支援先への直行、直帰やWEB会議により移動時間や経費を削減しました。				
	・職員間の接触を減らすためセンター内での勤務時間を調整しました。				
	・支援の圏域に適した事務所の移転を検討。大町から以南の地域を検討				

事業所名	特記事項				
	事業名	相談件数	相談人数	件数対前年比	人数対前年比
11 松本児童 家庭支援 センター あいく	相談支援事業	831	86	75%	215%
	支援事業	136		166%	
	指導委託	(396)	5	119%	167%
	合計	967	91		
収支状況	年度	収入	支出	収支差額	
	令和3年度	19,187,051	14,883,175	4,303,876	
サービス業務	<児童福祉事業>				
	・相談援助：個別相談実人数86人 延相談件数831件				
	・市町村支援：乳幼児健診アフターフォロー事業20回				
	・市町村の求めに応ずる事業8回				
	・指導委託措置の受託：児童相談所からの委託による指導5件、対応延数396回				
	・里親支援：里親サロン参加・里親研修会講義等5回				
	・関係機関との連携：他機関連携80回 支援者会議8回 関係者会議12回				

	管理業務	<p><人材育成> キャリアアップによる職場の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職務に関連した専門資格の取得の推進 ・公認心理師資格を取得することができました。 <p><効率的・自立的な施設運営> 業務安定化、効率化への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務実績を確実にするため、多方面の相談支援及び事業支援の実施を計画しましたが、新型コロナ感染状況等により、業務実績は横ばい状態でした。 <p><経費削減に向けた取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談援助記録システムの効率的利用による時間外勤務の削減を図りました。 ・里親会連合会事務局業務では、新型コロナ感染予防対策も含め、WEBによる役員会議を開催することにより、交通旅費の削減を図りました。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・支援事業（相談件数、事業回数）のカウントが当初予定と変更になり、補助金に大きく影響した。 ・長野県里親連合会事務局業務は令和4年度をもって次の団体に引き続ぎたい。（県には相談済み）

(3) 上伊那北部ブロック

事業所名	特記事項		() は年度途中での定員変更後の人数			
	事業名	定員	年度当初	年度末	定員との差異	
共同生活援助		125	128 (118)	117	△8	
事業名		実績		備考		
居宅介護		登録 72 人	1,593 時間			
行動援護		登録 14 人	865 時間			
移動支援		登録 110 人	3560,5 時間	計 6,018.5 時間		
収支状況	年度	収入	支出	収支差額		
	令和2年度	375,049,059	370,387,865	4,661,194		
	令和3年度	377,413,194	373,940,719	3,472,475		
サービス業務	<ul style="list-style-type: none"> ・上伊那圏域6市町村で23ホームと居宅介護事業所を運営しました。 ・平均年齢、57.0歳、介護保険利用者は6人、65歳以下の利用者3人が介護認定 ・退所者は4人（他施設2人、家庭復帰1、死去1）新入所者は3人（近隣在住） ・新型コロナウイルス感染対策のため日中活動に参加できない日が多く支援に大きな影響が出ました。 					
12 ほっと 上伊那	管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策では、圏域情報をもとに定期症対策会議を実施、その都度利用者、世話人に所の方針を発信しました。ワクチン接種は、地域で速やかな接種ができるよう支援しました。集団接種が困難な利用者については、地域医療と連携し往診接種で対応しました。対策を講じてきましたが2月2ホームで利用者8人、支援者10人が発症しました。法人内から感染現場に3人、延べ13人の応援を受け対応にあたりました。 ・世話人不足と世話人の高年齢化、また、募集に際し期待する年齢層や就労時間に見合う応募は少ない。ホームや世話人業務の効率化の検討が急務です。 ・伊那ゆいま～ると合同の新たな建物に移転しました。事業所相互の情報共有や連絡調整がスムーズになりました。また、ホーム利用者の災害時避難場所、インフルエンザワクチン接種会場等、効率的な活用ができました。約89万円の事務所に係る経費の削減になりました。 				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染者発症時の支援体制の検証 ・感染症対策により利用者の日中活動の場が無くなることの対応 ・世話人が感染ホームの直接支援に強い抵抗感がある（高齢、健康の理由） ・施設とは異なる住環境ゆえの感染拡大防止ためのゾーニングなどの対応が難しくGHゆえの脆弱性が浮き彫りになった。（人的支援、利用者の活動、居住環境） ・BCPの作成（ブロック、事業所） ・実年齢以上に利用者の老化が進んでいることへの対応。 				

事業所名	事業名	定員	年度当初	年度末	定員との差異
	生活介護	20	13	16	△4
	就労継続支援B型	20	24	26	6
事業名		実績		備考	
相談支援（特定）		計画23件		(自施設23人)	
13 伊那 ゆいま～る	収支状況		収入	支出	収支差額
		令和2年度	387,703,625	388,015,179	△311,554
		令和3年度	72,881,168	71,472,294	1,408,874
	サービス業務	<ul style="list-style-type: none"> ・生活介護事業（古紙回収等の生産活動、音楽、運動、創造的活動等）曜日で提供 ・入浴サービス（延べ633人が利用）タイムケアの入浴利用者が2人65回の利用 ・就労継続支援B型事業（軽作業等受託作業と縫製・木工の自主生産）平均工賃額は12,501円（前度比：12,898円）から微減、全体収入は2.4%、工賃は3.1%の減収 ・利用者4人が利用中止したが新たに6人が利用を開始しました。 ・計画相談では、29件のサービス等利用計画書案を作成しました。 			
	管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ・5月、ほっと上伊那と合同の新たな建物で事業を始めました。開所式は、新型コロナウイルスの感染レベルが高くなり、残念ながら中止しましたが、5月17日関係者や近隣の方を招き内覧会を行いました。30名あまりの方が来所され施設を見学しました。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・利用率が低く、安定的な利用者確保 ・新たな場所での地域との関係性の醸成（地区役員会参加）地域貢献活動 ・職員の確保が難しく現在も欠員が続いている。 			

事業所名	特記事項				
	事業名	定員	年度当初	年度末	定員との差異
	生活介護	20	20	21	1
	就労継続支援B型	20	22	24	4
	短期入所				
事業名		実績		備考	
相談支援（特定）		計画30件、モニタリング3件			
14 ほっと ジョイブ	収支状況	年度	収入	支出	収支差額
		令和2年度	89,368,519	86,227,525	3,140,994
		令和3年度	94,534,608	92,366,420	2,168,188
	サービス業務	<ul style="list-style-type: none"> ・生活介護事業では、コロナ感染レベルに応じた活動メニューの実施に努めました。（新規利用者1名・退所者1名） ・就労継続支援B型事業では、コロナ感染予防に努め、感染レベルに応じた、製造、販売やイートイン営業を可能な限り行いました。受託作業もコロナ禍の影響が継続していましたが、新規受託先を2か所開拓し作業の確保に努めました。（新規利用者2名・退所者1名）月平均工賃額23,661円（昨年比+3,272円） ・短期入所事業は、コロナ感染レベルにより状況を見ていましたが、9月より事業開始がきました。延べ10名の利用がありました。新型コロナウイルス感染の状況を見ながら、来年度も実績を積みたいと思います。 ・ほっとマルシェは規模を縮小し利用者のお楽しみイベント「ほっとミニマルシェ」として開催しました。（9/25） 			
	管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ・南箕輪村との災害時における要援護者受け入れに関する協定書を締結により今年度も確認を行いました。 ・感染レベルに応じた活動範囲を示したマニュアルの作成や、緊急対応マニュアルの見直しを行いました。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・安定的な利用者確保、利用を高める工夫（ニーズに多様化に対応） ・養護学校などの実習生、保護者に事業所の魅力を積極的に発信する取り組み。 			

事業所名	特記事項				
	事業名	定員	年度当初	年度末	定員との差異
就労継続支援B型	20	22	22	22	2
事業名	実績		備考		
相談支援（特定）	計画	24件、モニタリング 14件			
収支状況	年度	収入	支出	収支差額	
	令和2年度	47,798,027	46,433,363	1,364,664	
	令和3年度	48,280,821	48,477,390	△196,569	
15 辰野町 障がい者 就労支援 センター	サービス業務	<ul style="list-style-type: none"> 就労継続支援B型事業の自主生産では、新商品として通常麺では「カレー煮込みうどん」、ギフトでは「にゅう麺セット」「ラーメンバラエティーセット」を販売しました。 前年度出店を休止していた「BCリーグ」へ出店を再開しました。また、本年度から「伊那合同庁舎」にて毎月1回販売を始めました。前年度同様に市町村役場や事業所からの販売依頼がありました。（出店：59回／年） 自主生産及び受託作業の収入は前年度と比べると増収でしたが、令和元年度と比べると減収でした。平均工賃額は、25,083円（前年比 4,463円増） 			
	管理業務	<ul style="list-style-type: none"> 移転先の選定や事業内容の再検討を行いましたが、経費や立地条件など改めて確認したところ、建物の使用料等発生しておらず、利用者にとっても利便性がいいことから、現在の場所での運営が良いと考えます。 避難訓練：火災と水害を想定した訓練を地域活動支援センターと合同で実施しました。非常災害対策計画書及び洪水時の避難確保計画、防災計画等の見直しを行いました。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 受託作業は企業の景気に左右され見通しが立たない。 製麺に係る材料費の高騰 ぬくもり号の販売に従事できる職員の配置 製品販路の工夫と開拓（ふるさと納税返礼品、自動販売機等） 			

事業所名	特記事項 () は登録者の数				
	事業名	定員	年度当初	年度末	定員との差異
地域活動支援センター	20	8(14)	8(14)	8(14)	△6
収支状況	年度	収入	支出	収支差額	
	令和2年度	13,313,375	13,258,274	55,101	
	令和3年度	13,265,148	13,013,671	251,477	
16 辰野町 地域活動 支援 センター	サービス業務	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動支援センターの作業的な活動は、ウエス作り、裁縫、畑作業、受託作業（アルミ缶回収等）等を行いました。創作的活動では、絵画や工作等創作活動を行い、町地域福祉センターや喫茶店等へ展示を行いました。また、長野県障がい者文化・芸術祭、ぽかぽかアート展へ出展しました。平均工賃額は、665円でした。（昨年比 △178円） 地域定着支援の家族との意見交換会を就労支援センターと合同で11月に予定しましたが、日程が合わず当センターのご家族の参加はありませんでした。 			
	管理業務	<ul style="list-style-type: none"> 火災と水害を想定した避難訓練を就労支援センターと合同で実施しました。非常災害対策計画書及び洪水時の避難確保計画、防災計画等の見直しを行いました。（辰野町障がい者就労支援センターと合同） 第4期指定管理者受託に向けて1月、辰野町に申請しました。3月の議会にて指定管理者として受理され、令和4年度から令和8年度までの指定管理者の指定を受けました。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会との交流や活動をより積極的に行うことで地活センター事業への理解を求める。 利用率が低い中で、従前の作業（ボカシづくりなど）などへの対応が難しくなつてきている。 			

(4) 上伊那南部ブロック

事業所名	特記事項					
	事業名	定員	年度当初	年度末	定員との差異	
駒ヶ根	施設入所支援	93	85	85	△8	
	生活介護	125	122	120	△5	
	自立訓練	10			—	
	就労継続支援A型	20	12	12	△8	
宮田	施設入所	30	11	10	△20	
	生活介護	20	17	14	△6	
	就労移行支援	6	1	1	△5	
	就労継続支援B型	34	43	43	9	
事業名 実績						
相談支援(一般)		地域移行支援0件		地域定着5件		
相談支援(特定)		計画168件 モニタリング208件		前年度比(133.3 78.5%)		
駒ヶ根支援事業所						
収支状況	年度	収入	支出	収支差額		
	令和2年度	787,647,436	777,033,467	10,613,969		
	令和3年度	767,783,143	777,246,559	△9,463,416		
宮田支援事業所						
収支状況	年度	収入	支出	収支差額		
	令和2年度	192,500,837	183,723,952	8,776,885		
	令和3年度	184,424,507	190,749,993	△6,325,486		
サービス業務	<ul style="list-style-type: none"> ・コンチネンスケアの考え方をもとに、排泄に課題がある人の改善に取り組みました。 ・さくら支援課利用者の自治会名称「みんなで仲良くさくらの会」と定め役員決めと組織化を行いました。 ・「わーく西駒」就労継続A型 令和年度平均工賃 78,168円 (前年比92.5%) ・「わーく宮田」就労継続B型・就労移行支援 同上 20,393円 (前年比95.5%) ・地域生活移行者は1人でした。(長野市その他法人のグループホーム) ・昭和54年に発足した「下平区・西駒郷・こころの医療センター駒ヶ根連絡協議会」のあり方について三者で協議、見直しを行い解散が承認されました。次年度下平区、大久保区、西駒郷三者で新たな連絡協議会を発足する予定です。 ・地域の障がいのある方が自由にアート活動できるスペースアトリエ「風と太陽」(4回)「ほっと展」の開催、その他上伊那、下伊那の複数の展示会への出展 					
	<ul style="list-style-type: none"> ・現状と課題に立脚した学びのあり方について、プロジェクト「西駒郷に必要なことを考える委員会」が組織の活性化、人材育成、強度行動障害支援の三項目についてまとめた提案を行いました。 ・職員による利用者への心理的虐待と認定された事案が1件発生しました。再発防止策として県社会福祉士会派遣講師の職員研修、幹部職員講師による利用者向けの権利擁護研修を行いました。 ・利用者数が減少するまつば支援課の夜間帯の支援の夜間専門職員を導入試行の開始 ・西駒郷の再整備について、事業団事務局を交え県障がい者支援課と7回意見交換会を行いました。今後については「西駒郷機能強化事業」が実施され、強度行動障害者専用エリア設置のための設計業務・不用建物の除去のための設計業務(令和4年度)、専用エリア整備・解体工事(令和5年度)が事業化されました。 ・駒ヶ根支援事業部(障害者支援施設・障害福祉サービス事業所)が福祉サービス第三者評価を受審し、評価内容をサービスの質の向上に役立てました。 ・さくら支援課玄関ドア修繕(2・4・5寮)、地下タンク内面コーティング工事(県指定修繕) 					
17 西駒郷	管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ・西駒郷機能強化事業の実施に向けた取り組み／強度行動障害エリアの設置、整備 ・プロジェクトによる課題解決(支援力向上、施設整備、利用者移行) ・西駒郷のあり方検討の課題の取り組みと検証(県立施設としての役割、モデル事業の構築、日中活動の民営化) ・虐待防止への更なる取り組みの強化、安定的な人材の確保 				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・西駒郷機能強化事業の実施に向けた取り組み／強度行動障害エリアの設置、整備 ・プロジェクトによる課題解決(支援力向上、施設整備、利用者移行) ・西駒郷のあり方検討の課題の取り組みと検証(県立施設としての役割、モデル事業の構築、日中活動の民営化) ・虐待防止への更なる取り組みの強化、安定的な人材の確保 				

事業所名		特記事項			
18 上伊那 圏域 障がい者 総合 支援 センター	事業名	相談件数	相談人数	件数対前年比	人数対前年比
	相談支援	10,027 (延 21,410)	686	98.8% (121.0%)	101.2%
	就業・生活支援 C	2,810	392	117.9%	108.6%
	収支状況	年度	収入	支出	収支差額
		令和2年度	89,471,506	84,553,105	4,918,401
		令和3年度	88,896,023	85,233,038	3,662,985
	サービス業務	<基幹相談支援センター> 基幹相談支援センター及び自立支援協議会の役割について職員研修を行い、職員が共通の認識を持って活動することができました。 <障がい児等療育支援事業> 巡回等相談機能の充実を進め、専門職員（OT/PT/ST等）を派遣講師として確保し、特別支援学校や福祉事業所等へ 131 回派遣しました。 <障がい者就業・生活支援センター事業> 在職者交流会及び就労移行支援事業所に向けた出前講座を計 2 回、求職者の職場実習を延 71 人に実施しました。 現行の就労アセスメントシートに企業の意見を反映させ、改訂版を作成しました。 次年度から圏域内で活用することになりました。			
	管理業務	<人材育成>復命及び外部講師による所内研修を、月 1 回実施しました。また、外部研修の受講を推奨し、32 回延べ 76 人が参加しました。 <効率的・自立的な施設運営>計画相談の業務量が増大し、基幹センター業務を圧迫しているという課題については市町村から一定の理解を得ました。国等からの各種事業の受託は、総合的相談支援を可能とする当事業所の強みであり、経営の基盤となっています。引き続き委託先との対話を重ね、着実な業務執行を行ないます。			
	課題	・基幹相談支援センターの役割（困難ケースの対応、地域の体制づくり等）を担う中で、きらりあの機能が地域に認知された反面、すみ分けされず非常に多くの相談ケースが持ち込まれている。			

(5) 障がい者福祉センターブロック

事業所名		特記事項			
19 障がい者 福祉 センター	事業名	前年度実績	本年度実績	対前年比	備考
	サンアップル	39,477	43,193	109.4%	年間利用者数 R2 49,767人 R1 86,832人
	ながの	1,038	1,197	115.3%	
	駒ヶ根	6,062	6,397	105.5%	
	まつもと	1,480	2,183	147.5%	
	佐久	1,710	2,278	133.2%	
	合計	49,767	55,248	111.0%	
	収支状況	年度	収入	支出	収支差額
		令和2年度	323,434,017	315,428,448	8,005,569
		令和3年度	274,289,312	269,473,225	4,816,087
文化・スポーツ支援業務	<文化事業> 長野県障がい者文化芸術祭を9月下旬高森町体育館にて一般観覧を中止し、展示・審査・WEB展示会用撮影を実施しました。昨年に引き続き、10月から全作品をホームページで鑑賞できる「WEB展示会」を開催しました。				
	<スポーツ事業> 新型コロナウイルス感染症が拡大するなか、大会・イベントを中止する判断前に代替案を用意し、極力事業実施に努めました。 ストレッチ等の動画配信の継続、閉館時からのLive配信によるストレッチ・リズム体操を行うなど、直接支援とオンライン活用支援を併用しながら事業を行いました。				
管理業務	<新型コロナウイルス感染症対策> 県の要請により令和3年3月31日から4月25日(26日間)、8月19日から9月12日(25日間)の間、全館を休館しました。しかしながら、障がい者の運動機会を確保するため、令和4年1月30日から3月6日(34日間)はまん延防止等重点措置期間ではありましたが、入館時チェック及び館内感染症対策を徹底し、団体利用のみの利用制限をしながら営業を継続しました。また、各サテライトにおいても各地域の感染レベルに応じて事業縮小しながらできる限り事業を実施しました。				
	<防災安全管理> 浸水被害を想定した水防訓練(土のう・止水版の設置訓練)を実施しするほか、情報収集から利用者の避難誘導を行う洪水時避難訓練を初めて実施しました。				
課題	<利用環境の整備> オンライン会議のニーズに応えるため、ホールや会議室にLAN回線を増設し利用者の利便性の向上を図りました。				
	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料代の高騰による経費負担(温水プール昇温、維持等) ・第4次中期構想に基づく利用者の確保 ・台風19号災害の建物被害の復旧工事による休館、新型コロナウイルス感染症防止対策による利用制限等の影響で減少した従前の利用者の呼び戻し 				

(6) 泉平ハイツブロック

(人・%)

事業所名	特記事項				
20 泉平 ハイツ	事業名	定員	年度末数	前年同期	前年比
	介護老人福祉施設	74	71	67	106.0
	短期入所生活介護	16	延 5,176	延 4432	116.8
	通所介護	25	延 4,462	延 4446	100.4
	認知症対応型共同生活介護	18	16	18	88.9
	居宅介護支援事業	35	35	35	100.0
	収支状況	年度	収 入	支 出	収支差額
		令和 2 年度	718,370,842	494,382,212	223,988,630
		令和 3 年度	518,310,874	502,234,979	16,075,895
	サービス (高齢者介護) 業務	<p><施設・居住系サービス>（介護老人福祉施設、認知症対応型共同生活介護） 前年度に続き、コロナ感染症予防のため、家族等との面会停止や各種行事の縮小などにより、利用者の生活の制限が続いていることから、少しでもストレスを軽減するため、リモート面会、趣味を生かせるクラブ活動の開催、季節を感じさせる食事の提供などを行いました。また、日々の健康管理を把握した上で、適時適切なサービスを提供しました。</p> <p><通所、短期入所サービス>（通所介護、短期入所生活介護） 在宅における生活が継続ができるよう、身体機能を維持のため新しいレクリエーションや月間ディの DVD を取り入れた日常生活訓練等のサービスの提供を行いました。また、家族への支援として、相談への対応や安楽な在宅生活を行うための助言に努めました。</p> <p><居宅介護支援事業> 地域に暮らす高齢者が、住み慣れた地域において、安心して、望んでいる生活を送れるように、保険者や地域包括支援センターなどと連携の上、適切なサービスを受けられるために支援を行いました。</p>			
	管理 業務	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅サービス（デイサービス、ショートステイ）について、コロナ禍における利用控えなどもあり利用者が減少傾向であったため、ケアマネージャーなどとの連携により利用希望者を把握し、利用促進に繋げました。 ・科学的介護情報システム（LIFE）及び介護支援ソフト、タブレット等を導入し、記録業務の標準化・省力化による介護職員に係る業務負担の軽減を図りました。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・建物及び備品の老朽化の計画的な修繕 ・燃料費、消耗品等の高騰による管理運営の影響 ・常態的な職員不足と職員育成 			

<抜粋資料1>

実施事業及び職員体制

令和4年3月31日現在

プロ ック	事業所名	委託	事業名	利用者数		職員数 *1,2,3					
				定員	現員	支援員		その他			
						配置	うち兼務	配置	うち兼務	配置合計	
	法人本部			-	-	13		13		13	
長野	水内荘		施設入所支援	40	40						
			生活介護	60	59						
			短期入所(併設型)	6							
			特定・一般相談	-							
	みのちGHセンター		共同生活援助	56	51	39		1		40	
		市委託	地域生活支援(相談等)	-							
	歩楽里		地域生活支援(移動支援等)	70							
			基準該当事業	15							
			放課後等デイサービス	10	33						
			特定・一般・障害児相談	-	250						
松本	八雲日和		生活介護	20	16						
			就労継続支援B型	20	22						
	小春日和		就労移行支援	6	3						
			就労継続支援B型	14	17						
			就労定着支援	-	3						
		市指定管理	地域活動支援センター	15	13						
	信濃学園	県指定管理	施設入所支援(児童)	30	29						
		"	施設入所支援(成人)※休止中	-							
		"	生活介護※休止中	-							
		"	短期入所支援(空床)	-							
		"	日中一時支援	-							
上伊那北部	松本あさひ学園	県指定管理	児童心理治療(入所)	30	15						
		"	児童心理治療(通所)	5	4						
	松本ひよこ		生活介護	21	21						
			就労継続支援B型	18	18						
			共同生活援助	23	23						
			重度障害者等包括支援(再掲)	5	5						
	大北圏域障がい者就労・生活支援センター		特定・一般・障害児相談	-							
		国委託	障害者就業・生活支援センター雇用安定	-							
		県委託	障害者就業・生活支援センター生活支援	-	-						
上伊那南部	松本児童家庭支援センター	県委託	児童福祉	-	-	2		2	2	4	
			共同生活援助	125	119						
	ほっと上伊那		地域生活支援(移動支援)	-	-	36		6		42	
			基準該当事業(行動援助)	-							
			基準該当事業(居宅介護)	-							
			生活介護	20	17						
	伊那ゆいま～る		就労継続支援B型	20	27						
			特定相談	-	23						
			就労継続支援B型	20	24						
			生活介護	20	22						
祉障セがんいタ者タ福	ほっとジョイブ		短期入所(単独型)	4							
			特定相談	-							
			就労継続支援B型	20	21						
			辰野町障がい者就労支援センター	-	21						
	辰野町地域活動支援センター		特定相談	-		8	3	2	2	10	
		町指定管理	地域活動支援センター	20	13	4	1	2	2	6	
		県指定管理	施設入所支援	93	87						
		"	短期入所支援(併設)	2	-						
		"	短期入所支援(空床)	-	-						
		"	生活介護	125	121						
泉州ハイツ	駒ヶ根支援事業部		自立訓練(生活訓練)※休止中	10	-						
			就労継続支援A型	20	12						
			自立生活援助	-							
			特定・一般相談	-	199						
		県指定管理	施設入所支援	30	8						
		"	短期入所支援(空床)	-	-						
		"	生活介護	20	14						
		"	就労継続支援B型	34	43						
		"	就労移行支援	6	1						
	上伊那圏域障がい者総合支援センター		市町村委託	基幹相談支援センター強化	-						
			県委託	障がい児等療育支援	-						
			"	発達障がいサポートマネージャー整備	-						
			国委託	障害者就業・生活支援センター(雇用安定等)	-						
祉障セがんいタ者タ福	障がい者福祉センター		県委託	障害者就業・生活支援センター(生活支援等)	-						
			市町村委託	地域生活支援拠点等整備	-						
			"	退院支援体制確保	-						
			特定・一般・障害児相談	-							
		県指定管理	スポーツ運動支援	-							
		"	レクリエーション活動支援	-							
		"	文化活動支援	-							
		"	登録ボランティア養成	-							
		"	啓発・広報・情報提供	-							
			介護老人福祉施設	74	74						
福祉セがんいタ者タ福	泉平ハイツ		短期入所生活介護	16	16						
			通所介護	25	18						
			認知症対応型共同生活介護	18	18						
			指定居宅介護支援	35	35						
			合計:(A)	1,211	1,062						
前年度合計:(B)				1,124	1,069	654	19	97	19	772	
前年度比:(A)-(B)				87	-7	657	(兼除)	78	735	-1	
						3		-4			

[留意事項]

<抜粋資料2>

就労支援事業所の工賃

事業所	売上高 (千円)	労務費 (千円)	月平均工賃 (円)	前年比 (円)	月平均工賃 最高額等 (円)
八雲日和 (就労B型)	13,805	6,171	25,822	4,116	最高額 50,129 最低額 12,550
小春日和 (就労移行)	355	355	15,474	3,444	最高額 22,390 最低額 150
小春日和 (就労B型)	9,099	4,397	15,786	5,288	最高額 24,130 最低額 150
こぶし (地活)	373	0	3,073	917	最高額 6,390 最低額 160
松本ひよこ (就労B型)	5,782	2,375	11,067	△28	最高額 24,122 最低額 1,823
伊那ゆいま～る (就労B型)	3,648	3,000	12,501	△398	最高額 32,226 最低額 638
ほっとジョイブ (就労B型)	17,764	6,530	23,661	3,272	最高額 51,260 最低額 880
辰野町就労センター (就労B型)	11,009	6,295	25,083	4,287	最高額 85,800 最低額 490
辰野町地活動センター (地活)	364	60	665	△25	最高額 2,250 最低額 50
西駒郷わーく西駒 (就労A型)	22,563	11,256	78,168	△6,351	最高額 90,514 最低額 47,315
西駒郷わーく宮田 (就労移行・就労B型)	17,071	9,950	19,474	△919	最高額 30,992 最低額 10,362

